

Theme

信仰と社会

研究発表 am 9:00-pm12:00

基調講演 pm13:00-pm14:30

シンポジウム pm14:30-pm15:30

2011年3月11日、私たちは東日本を中心に、巨大な災害に見舞われた。地震と津波による被害からの復興は困難を極め、原発事故による汚染被害は、課題が多様に拡大し、終息の方向すら見えない状況にある。その中で宗門も、宗祖讃仰の750回御遠忌を「被災者支援の集い」として受け止め、被災された方々と痛みを共にする御縁をいただいた。大災害は、人間の傲慢さを露わにし、あらゆる人々の心の中に「つながりを生きる」という、これまで見失われていた感のある人間本来の課題を明らかにした。深い悼みと悲しみに包まれ、帰るべき故郷を失った方々と苦悩を共にする中で、私たちはどのように真宗の教えを生きればいいのか。

Lecturer

鍋島 直樹 龍谷大学教授 講題 「東日本大震災の東北を訪ねて — 悲しみに寄り添う」
田代 俊孝 同朋大学教授 講題 「共業の自覚と「われら」の二種深信」

第19回 真宗大谷派教学大会

2012.7.8 (Sun) am 9:00-pm15:30

会場 大谷大学 (1号館)

地下鉄烏丸線「北大路駅」下車徒歩5分

～ 一般来聴歓迎 (聴講無料) ～



主催 真宗教学学会・真宗大谷派 (東本願寺)
問い合わせ 真宗大谷派宗務所 教育部 075-371-9193